

令和7年度 保幼こ小エリア連絡会公開保育&協議会まとめ (上野こども園)

- 日時:令和7年7月28日(月)9:30~
- 協議の視点 \*保育参観後の協議会において、各グループごとに下記の①~③の視点で話し合った内容をまとめました。

① 子どもが探求する姿、関わり合う姿



船づくり  
作ったものを試す

② 教師の援助や環境構成について



しっぽ取りゲーム  
保育者もチーム  
の一員として

子どもの関心に沿っていつもでも調  
べたり確かめたりできるように...

③ 幼小接続の推進に向けて



朝の会

活動のウェビングマップ

グループ1

- 朝の会を自分たちで進める、役割を決める、時間を意識して行動する姿。
- 「船作り」での試行錯誤や、折り紙、パズル、工作(あき箱など)への集中。自分たちでルールや作戦を立てて遊ぶ姿。
- エイサー、ダンス、劇遊びなどを通じた表現。友だちと相談しながら「何を作るか」を決める対話の発生が生まれていた。
- 虫(ザリガニ)への興味、絵本、言葉遊び(しりとり)、数への関心が見られた。

□ 教師の関わり

- 子どもの興味に寄り添い、思いを拾い上げている。
- 「どうしてこうなるの?」「どうしたらいいかな?」と問いかけ、思考を促している。
- 子ども同士のトラブルや相談に対し、解決へのヒントを出しつつ見守っている。
- 活動の最後に振り返りを行い、子どもたちが「次は何をしたいか」をイメージできるような声掛けをしちえる。

□ 環境の構成

- 子どもの活動の足跡が見える写真や文字の掲示。野菜の成長記録など、実物とリンクさせている。

□ 教科へのつながり

- 算数:遊びの中での数・量・形への関心。朝の会の人数確認や時計。
- 生活・図工:遊びが学びへ。植物の観察記録、絵画表現、浮力(浮くか沈むか)への興味。

□ 安心感と対話

- 自分の思いを安心して表現できる環境が友だちとの対話や協力(作戦を立てる、振り返る)を生む。

□ 授業スタイルの改善へ

- 「ふり返りのタイミング」を重視し、子どもへの価値づけを行うことで、次の意欲へつなげる工夫。

グループ2

探究的な遊び

- 「浮かぶかな?しずむかな?」と船や野菜で実験したり、色水遊びで花を叩いたりする姿
- 五十音表やパズルを使い、友だちと協力して文字を探したり書いたりしている。
- 集団の中での育ち
- チームで話し合い、相手の思いに気づいたり、しっぽの長さを工夫したりしている。
- 朝の会で「先生役」の子が張り切って進行し、内容や天気を皆に伝えている。
- ほとんどの園児が友だちと一緒に過ごし、やりたいことを相談しながら進めている。

□ 環境構成の工夫

- やりたい時にすぐ道具を出して作れる環境(お守り作りなど)がある。
- 作り方や活動の様子の写真、図鑑などをいつでも見られる場所に配置している。
- 分類された絵本コーナーや、子どもの認識(エビは海のコーナー等)を活かした掲示。

□ 保育者の援助や関わり

- 先生が主導するのではなく、子どもが主体となって進められるよう、必要に応じて言葉をかける。
- 子どものやったことを全力で肯定し、笑顔で見守り、一緒に楽しむ。
- 「何時まで遊ぶ?」など、子どもに問いかけ、自分たちで決めさせる。

□ 学習への芽生え

- やりたいことの実現による達成感が学習意欲へと繋がる。
- 「どうして?」「やってみよう」という気持ちを「学びの芽」として捉える。

□ コミュニケーションと社会性

- 自分の気持ちや意見を話し、友だちの意見を聞く話し合いの大切さに気づくようにしていく。
- トラブル時も感情的にならず、話し合いや折り合いをつけて解決できるようにしていく。

□ 各教科等への繋がり

- 算数・数量・箱の形(いろいろなかたち)への関心、文字や数字、時計・時間の感覚。
- 製作・生活:おもちゃづくり、折り紙での虫作りや虫あみの自作。
- 体育:しっぽとり等のチームでの活動、作戦を立てたり、勝敗を経験したり、体を動かすことなど
- 音楽:ピアノ、エイサー、ダンス、貝殻の音などの表現。

□ 生活習慣

- 当番活動や集まりなどで人の話を注目して聞く態度。

グループ3

- ピアノの歌に合わせて考えながら踊ったり、しっぽ取りを楽しんだりしている。
- 「濡らしたくない」と一生懸命作り、水に浮かべて試行錯誤する姿が見られた。
- 玩具の取り合いに対し、保育者が「どうしたら仲良く使えるかな?」と問いかけ、本人同士で話し合えるよう見守っていた。
- 折り紙、外遊び(花びらで色水作り)、虫取り、キャンプごっこなど、自分たちで遊びを見つけて楽しんでいる。

□ 保育者の援助

- 「やってみて」「どうなるかな?」と否定せず、子どもの試行錯誤を促す声掛けをしている。
- 子どもが話しやすい雰囲気づくり。
- 子どもと一緒に考えたり楽しんだり悔しがったりしている。

□ 環境の工夫

- 文字が読めない子のために色で示す、準備を整えておく。
- 図鑑、折り紙、道具箱など、すぐに手に取れる環境設定がなされている。
- 子どもの興味に合わせて遊びが続くよう、環境や素材を構成する。

□ 他者との関わり・集団づくり(試行錯誤する姿)

- 園での経験をもっとたくさん聞く。友達との関わり、他者への関心、困った時に言える力を育てる。
- 制作活動を通じて、様々な素材・道具に触れ、相手のアイデアに気づけるような声掛けをする。

□ 平和教育・給食へのつながり

- 絵本に関連し、自分の気持ちを書く、文字への興味、相手の気持ちを知る。
- 命の大切さ、仲良くする、思いやり、平和について考える。
- 給食コーナーの掲示(献立、活動内容)により、食への関心が向けられている。

□ 教科へのつながり(文字・数・感性)

- 文字・数字: 掲示されている漢字やカタカナに慣れる。時計の針(長い針、短い針)への興味。
- ルール・体づくり: ルールのある遊びや、エイサー、ピアノ、しっぽ取りなどが、小学校の体育や音楽につながる。

幼児教育・小学校教育、それぞれの教育で必要なことが一緒に確認出来てよかった。



もっともっと話し合う時間が欲しい!色んな校種の先生からの話が聞けて、とても勉強になりました!

宮本先生コメント

協議会において、子どもの主体的な姿が教諭同士で丁寧に語り合われていた。  
 ○子どもの主体性についての丁寧な語り。プレイフル...遊び心、遊び性を普段の授業、日常に活かしていく。  
 ○学びのプロセスに焦点が当てられた語り。ネガティブな経験からいかに立ち直っていくか。  
 ○環境構成についての語り。完璧な環境構成ではなく、余白のある環境構成であることが大事。子どもが不足感に立ち会う時どう立ち振る舞うか。困難に立ち向かうときどう攻略していくか。  
 ○対話の質、保育者のまなざしについての丁寧な語り。直接体験の重要性。成功も失敗もどうするかを子どもが自己内省察する。  
 ○子どもや遊びを見取っていく、共有する文化の大切さ。  
 ●子どもの遊びの保証はされていたが、子ども自身が「なぜ?」という問いを投げかけられた時に答えられるようにしていく。遊びの中で日々試行錯誤し自分なりに言語化できるようにしていく。プロセスを言語化していくことが課題。→遊びに没頭していく中で、自分がやってきたことを振り返りながら言葉にしていける、言語化していくことが重要。

7月28日(月) 上野こども園



しっぽ取りゲーム



船づくり



個人の興味や探究  
↓  
他者との関わりや協働的な活動へと発展する可能性

以下の点を考えることが大事では?

- 共通の関心につながる問いはあるか?
- 素材や空間を共有し合う場はあるか?
- 対話的な関わりや気づきの共有を促す援助がなされているか?

単なる追いかけっこではない  
複雑 追う・追われる  
複合 身体/認知/社会性

状況判断し、相手との駆け引きのなかでの身体コントロール...  
それに加えて、仲間とのやりとり...

作戦立て/戦略立ての高度化

先生が入るなら抜ける  
A君がいなきゃつまらない



令和7年度 保幼小エリア連絡会公開保育&協議会まとめ (西辺幼稚園)

- 日時:令和7年7月29日(火)9:00~
- 協議の視点 \*保育参観後の協議会において、各グループごとに下記の①~③の視点で話し合った内容をまとめました。

① 子どもが探求する姿、関わり合う姿



みんなで。一人一人好きな遊びを選んで。

② 教師の援助や環境構成について



いつでもチャレンジできる遊具等の設置

子どもが関心を示すようなさりげない掲示

③ 幼小接続の推進に向けて



全体での活動の様子

遊びの履歴を残す

グループ1

- 主体的に活動を選び、遊びや表現を楽しんでいる。
- 自由に遊べる環境を楽しみ、跳び箱や鉄棒に何度もチャレンジする姿がある。
- 雨天時のため室内で跳び箱や鉄棒に夢中になるなど、天候に合わせて遊んでいる。
- 虫(カマキリ)の観察や栽培活動、野菜販売などに興味を持っている。
- 摘んできた草花を自分で生け花にする際、長さを調整して切るなど工夫も見られた。
- リズムックで音楽に合わせて表現したり、絵画や折り紙に取り組んだりしている。
- 自分のやりたいことを先生に伝えたり、友達の発表を聞く姿勢もみられた。

- 環境構成: 道具や玩具がコーナーごとにまとまっており、子どもにとって分かりやすく使いやすい配置になっている→これにより片付けもスムーズに行われている。
- 教師の援助
  - 困っている子がいる時に「みんな手伝おう」と声をかけ、助け合いを促す場面があった。
  - カマキリをどうしたいか子どもに問いかけるなど、教師が決めるのではなく、子どもに聞いている。
  - 午前の教育活動と午後の預かり保育での活動の連携がスムーズに図られている。

- 子ども同士の日常的な交流を重視。
- 学びの理解:幼児期までの学びの内容を把握し、その後の成長が見えるような環境作りを目指す。
- 課題:園児数に比べ職員数が多いために協働的な学びにつながりにくいのでは?

グループ2

- お絵描き、トランポリン、鉄棒、跳び箱、リズムックなど、自分の好きなことに取り組む姿が見られた。
- 自分で使いたいおもちゃを出したり、ブロックの組み立てを楽しんだりしている。
- トランポリンで順番を守る姿や、鉄棒で「見本を見せるね」と教え合う会話が見られた。
- 課題:子ども同士の関わりが少ない場面もあり、普段の生活習慣や遊びの広がりに関心が寄せられた。

- 環境構成
  - 整理整頓が行き届き、おもちゃの定位置化や片付けやすい工夫、運動器具(鉄棒・跳び箱)をすぐに出せる環境が整っている。
  - 生き物コーナーの飼育環境が非常に充実しており、虫の大きさを測るスケールなどの工夫も見られる。(知的好奇心の刺激)
- 保育者の関わり・援助
  - 先生が一人ひとりの場所について寄り添ったり個々の表現を引き出すための環境設定もされている。

- ひらがなパネル、絵本、小学校向けの本が充実しており、興味を持った時にすぐ手紙などを書ける環境がある。
- 小学校からも覗ける「生き物コーナー」や「昆虫探しの引き継ぎ」など、共通の関心事を通した連携が図られている。
- 振り返りの視点や、調べ・考え・発表するといったプロセスを今後もつなげていくことが大切である

西辺幼小のように、日常的に連携を取り、学びを広げていきたいと思いました!



幼児教育の先生方の視点での気づきが共有できて勉強になりました!

グループ3

- 静と動のコーナーが分かれており、それぞれが好きなことに取り組んでいる。
- 「自分のできることを見てほしい」という気持ちが強く、自分の好きなことに集中していた。
- 鉄棒ではコウモリや前振りなどの技を見せようと、順番を決めて遊ぶ姿があった。
- 生き物コーナーで、虫に対して愛情を持って接したり、家を作ってあげたりしていた。
- 友だちとの関わりよりも、運動遊びを中心の姿があった。

- 環境構成の工夫
  - 物の片付け場所が決まっているため、子どもたちが自分たちで片付けがしやすい。
- 先生の関わりと集団形成
  - 子どもたちがやりたいことを自由にできる雰囲気が作られている。
  - 遊びの振り返りでは、全員の顔が見えるよう丸くなり、友だちの話や話を聞く姿勢が育まれている。
  - 全体をまとめる際の「おりこうさんたち」という掛け声があったが、少人数であるため名前前で呼ぶ方もいいのでは?

- 生活習慣と役割
  - 日直や当番など、小学校生活でも生かせる活動を取り入れている。
  - 決まった時間に行動することや、身の回りの整理整頓を意識している。
- 学びへの連続性
  - 人数のゆとりを活かして個々に関わり、子どもの「やりたい」を尊重することで、学びたい意欲を伸ばしている。
  - 遊びの中で培われる「集中する力」を、学びへとつなげていく。
- 連携強化
  - 小学校へ行ってみるなどの直接的な交流や、小学校の先生と話す機会を持つことを増やしていく。

宮本先生コメント

架け橋プログラムがなかなか進まない要因はなにか?幼児教育の「遊びを通して」「生活を通して」「環境を通して」という部分の難しさ。環境を通してとは...その環境に子どもが心を動かし、関わっていく。子どもにとってのプロセスとして意味を持たせていく。

○「跳び箱は手をついて飛び越すもの」ということを幼児期では教えようとしなくても良い。「跳び箱」の『材』としての特性を知っていくことが大事。小学校以降で「跳び箱をとぶ」という意識を持たせていく。幼児期では「材」として好きになることが大切。幼児期の「材」との出会い方を考えてあげる。「材」そのものを好きになれるように保育者は援助をしていく。

○ルールとの出会い...子ども自身が考える余地を作ることが大切。「なぜ」だめだったのか?を子どもたちが考えられるようにする。「危ないからやめよう」と伝えることも大切だが、「なぜそうしないといけないのか」をきちんと考え理解できるようにすることが重要。自分自身がきちんと身をもってわかったことについては、子どもたち同士で伝え合えるようになる。

幼小接続 4つの心(秋田喜代美先生)

㊦だねられる	㊦ずりあえる	㊦るしあえる	㊦とりのある
こども自身が考えられる余地を残す	集団生活、他者を知っていく中、他者と暮らしていくための社会のルール、関係性、基盤を幼児期でしっかり醸成していく		先生方の心のゆとり

7月29日(火) 西辺幼稚園

(写真がなかったため文字のみですみません)

観察・模倣・試行錯誤など、学びの姿勢の醸成が、小学校体育での技の習得に無理なくつながっていく

鉄棒

- 技の習得だけを目的にしない
  - 苦手意識や消極的態度につながってしまう
- 子どもなりの表現が履歴として残していく
  - 挑戦・意欲に作用するとともに、体幹・握力といった身体性に面白がりながら出会う機会にもなる
- 幼児期の鉄棒遊びは、運動技能の土台づくりであるとともに、多様な表現が認められることで自己肯定感にもつながる

跳び箱

- 「跳ぶ」ことに限定してしまう活動になると、「できる/できない」といった点に意識が向くので、プレッシャーや苦手意識につながる
- 幼児期においては、遊びの一環として跳び箱を活用していくことが必要では?跳び箱を見立てやなりきりの材にして、登る/降りる/またぐ/くぐるといった身体を動かすことを楽しむ=跳び箱が好きになるに。この原体験を増やすことが小学校への接続において重要

「技を教える」よりも「関わる・遊ぶ・楽しむ」ことを優先。「できるか」ではなく「どう楽しんでいるか」に目を向けることが、鉄棒/跳び箱=「運動」ではなく「遊び」に

- 身体操作の基盤形成
- 自己判断力
  - 判断と挑戦の経験に
- 運動へのポジティブな感情の発露

令和7年度 保幼小エリア連絡会公開保育&協議会まとめ (うららか保育園)

- 日時:令和7年7月30日(水)9:00~
- 協議の視点 \*保育参観後の協議会において、各グループごとに下記の①~③の視点で話し合った内容をまとめました。

① 子どもが探求する姿、関わり合う姿



グループ1

- 子ども同士で互いの行動に気づき、「こんな風にするんだよ」と教え合ったり、ガムテープの切り方を教えたりするなどスムーズな貸し借りができている。
- 教師に頼りすぎず、まずは自分でやってみようとする姿が見られる。
- 製作途中で「かわいくなってきた」と言葉にしたり、友だち同士で「かわいいね」「似合っているよ」と互いの作品を認めあったり、褒め合ったりしている。
- 椅子に座って話をしっかり聞くという基本姿勢ができていて、遊び(水遊びや製作)に対しても集中して取り組んでいる。

グループ2

- 自分の作りたいものをイメージして作成する、水の性質を知ろうと試行錯誤する、1人で好きな物を作りたいという思いから集中して取り組む。
- グループ活動でガムテープを貸し借りしたり、友達「自分も作りたい」という気持ちに共感して一緒に作ったりする姿。
- 道具が1つしかない時に譲り合う、ぶつかりそうになった時に「ごめんね」と言い合える、順番を待つ子に優しく声をかける。



② 教師の援助や環境構成について



□環境構成

- 夢中になれるよう多様な素材(ビニールテープ、両面テープ等)が準備されている。
  - 時計や朝の会の日程を視覚化することで、見通しを持って活動できるように工夫されている。
  - 課題:思い切り活動できるようにホール等を活用してもよかったのではないかな。
- 教師の援助・関わり
- 子どもの言葉に共感し、迷っている子には一緒に材料を選びながら、「どうしたいのか」丁寧に声をかけていた。
  - 「最強の水遊び道具を作りたい」という子どもの声を受け止めて2回目の活動を設定するなど、興味の継続を支援している。

③ 幼小接続の推進に向けて



幼小接続の推進において

- 自律性の育成:** 自分たちで決めて行動する「自己決定の場」
- 教科学習への芽生え:** 積み木遊びなどを通じて、将来の「教科」の学びに繋がる遊びの経験を増やしていく。
- 探究心と語彙力の向上:** 多くの遊びを経験することで興味・関心を広げるとともに、活動の中で「意識的に名詞を使う」など、言語を通じた概念形成も意識する。

幼小接続の推進において

- 園での経験を学習の中で引き出し、想起させる。
- 目的を持って継続して取り組む姿勢を育てる。
- 「時間の意識」を持ち、見通しを立てて行動する。
- 文字、時計、スケジュール表などを環境に取り入れる。
- 子ども同士でコミュニケーションを取り、自分の役割や生活面(自分自身の管理)を大切にする。
- 1回目、2回目と活動を重ね、前回の振り返りをもとに次のテーマを設定する。

グループ3

- ペットボトルの隙間に牛乳パックを入れる、プチプチを1つずつ塗って切る、きらきら折り紙や色違いの蓋を選ぶなど、素材を選んで活用している。
- ビニールテープを大量に巻いて「つりざお」を作ったり、トレーやペットボトルに長い箱を組み合わせて独自の形を作るなどの自由な発想での製作している。
- 水に浮かぶ野菜・果物がどれなのか水槽に入れたり取り出したり試す姿がある。

□教師の援助

- 「~したほうがいい」と指示するのではなく、「どうしたらいいかな?」と子どもに問いかけてながら子どもの思いや考えを引き出している。
- 時計のイラストを活用して時間の意識を高める工夫や、進捗状況に合わせてグループを分ける柔軟な対応をしている。

□安易に手を出さず子ども自身の

- 力にまかせる姿勢を重視している。
- 子どもが「いつでも作りたい」と思えるような環境を構成し、自発的な学びを促していく。

普段のエリアと違うエリアの先生方の話が聞けて新鮮でした。宮本先生の話が毎回勉強になります。



園を公開して、保育を見ていただき、たくさんの先生方からご意見やアドバイスをいただいたことに感謝します。

宮本先生コメント

- うららか保育園の理念...非認知能力を育てていく。アクティブラーニング
- 自己決定、自己選択をしていく→主体性 子どもが興味関心を持って。
  - 環境 対話的な学び 子ども同士がやりとりをして生みだしていく。\*自分たちの発見を組み合わせたら、前回より最強に近づく価値付け 子どもの対話(発見、気づき)を他者に伝える
- 深い学びについて...物事の意味や関係性を考えていたか。最強の水遊びがイメージとして子どもがどれだけ捉えていたか。一人一人が持っている「最強」が意味づけられたら前回よりもっと最強になるのか?
  - ・ 「水につけてもこわれない」というのは、教師の方向付け?教師の最初の問いかけ、前回と比べてどうだったら最強か【比べる】
  - ・ 前回の作品を展示する。子どもたちの対話のために、保育者自身のためにも。その子だけに返した方がいいのか全体に返していけばいいのかを考えていく。
  - 活動が、目的ありきの探索にならないように、遊びから進めたかったのか、活動として進めたかったのか。保育者自身の主体的、対話的で深い学びに対する認識も重要である。
  - ・ 心の粘り強さ 非認知能力にもう少しアプローチする。
  - ・ 子どもが粘り強く取り組み、他者と折り合いをつけること、自己調整することを意識していく必要がある。
  - ・ 「個」じゃなくて、「全体」で作ったら、みんなが思う最強をつくるために素材を持ち寄ってもいい。そこで保育と家庭がつながる。
  - ・ 他の子の物と自分の物と意見がぶつかり合い、他者の意見を受け入れたりする機会もある。ネガティブなこともどれだけ経験するか。貸して、もっとつかいたかったのに...ぶつかり合うことで、折り合いをつけていく力がついていく。(小学校に向けて)
  - ・ ポジティブなことだけでなくネガティブも種をまいていく、出会わせていくことが大事。

7月30日(水) うららか保育園

活動「最強の水あそび道具を作る」

これまでに...  
 ・色々な材料で水遊び道具を作る【子どもの発意】  
 水鉄砲/船 作りたいが起点  
 ↓  
 最強の水遊び道具を作る!!

子どもたちにとっての最強って? 作りたい「道具」のイメージはある? 作る場所は保育室で良い? 子どもが使いたい素材の種類は充足している? 素材はどこまで子どもが扱い、どこから保育者が手伝う?

遊びを通じた探究/創造/協働の学び要素が詰まった面白い活動 → 幼児の問いや試したいから広がる(話し合い、共同実験/制作、事後の説明)が見付け、比べ、たとえ、試し、見直し、工夫する小学校の学習の土台に

園の理念から小学校への接続を考える

主体的・対話的で深い学び

- 子どもが興味・関心をもとに活動に向かうなかで、考え、判断し、行動する力(主体性)を見とる
  - 他者(保育者/他児)やモノとのやりとりを通じて、言葉や非言語表現を用いながら、気づき学び合う力(対話性)を見とる
- は、公開保育後の研究会で語り合われることが増えてきたものの...
- 遊びや活動の意味や物事・出来事の関係性を捉え、見通しを持ちながらつなぐ力(深さ)を捉え言及する点は課題

非認知的スキル

- 自分で選び、試行錯誤する
- 友達とアイデアを出し合ったり、繋げ合う
- 他児とのトラブル: どう感情調整し問題解決に向かう?
- 子どものリズムやペースを「待てる」か

1. 日時:令和7年7月31日(木)9:00~  
 2. 協議の視点 \*保育参観後の協議会において、各グループごとに下記の①~③の視点で話し合った内容をまとめました。

① 子どもが探求する姿、関わり合う姿



浮かぶかな。沈むかな。

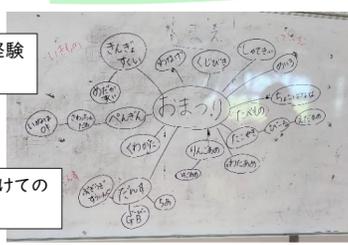
② 教師の援助や環境構成について



夏祭りを楽しんだ経験を園でも再現

園の夏祭りに向けてのウェビングマップ

③ 幼小接続の推進に向けて



今日のふり返りをクラス全体で共有する

グループ1

- 野菜の色、形、断面などへの興味から、水に浮かぶかどうかの予想や実験へと活動が主体的に発展している。
- 発見したことを言葉にしたり、絵に描いたりすることで、自分の気づきを他者に伝えようとする姿が見られる。
- 準備や片付けを自分たちで行い、友達の活動を認めたり助け合ったりする関係性が育っている。

・教師の援助

- すぐに答えを教えるのではなく、子どもが自分で考え、発見する時間を確保するために「待つ」姿勢を徹底している。
  - 子どもの発見に共感し、次のステップへ導くような問いかけ(オープン・クエスチョン)を行い、思考を広げている。
- ・環境構成
- 子どもが夢中になれるよう環境を整えすぎず、あえて「余白」を作ることで、自発的な工夫を引き出している。

円滑なや幼小接続の推進に向けて

- 行事などの特別な交流だけでなく、普段の遊びの中での自然な関わりを重視し、小学校への親近感を育む。
- 自分の考えを友達や保育者に伝える経験を積み重ね、小学校での学びに繋がる「伝える力」を養う。
- 給食の時間や活動の切り替えなど、小学校の生活リズムを意識した言葉かけや環境づくりを行っている。

グループ2

- 野菜が水に浮かぶか何度も試したり、絵の具を混ぜて色の変化を面白がったりしている。
- 虫とりで友達と協力し、絵の具の貸し借りや技法を教え合うなど、主体的に関わった。
- できないことに挑戦する粘り強さや、思い通りにいかず泣いてしまう素直な感情を見せていた。

□保育者の援助

- 「どうしたい?」「何に困っている?」と問いかけ、子どもの気づきや解決策を自ら考えさせている。
- 振り返りを通して昨日の遊びとのつながりを意識させ、意欲や目標を明確にしている。

□環境構成

- 校庭の活用や、ダイナミックな制作ができる広いスペース・活動の履歴を残しておく。

円滑なや幼小接続の推進に向けて

- 保育観察や校内研修を通じて、就学前の子ども様子を共有する。
- 行事や集会への参加により、職員・子ども双方が気軽に小学校へ足を運べる関係を築く。
- 計画段階から互いのねらいを確認し合い、実践と反省を繰り返すことで連携を深めている。

小学校でも子どもたちの「ふしぎ」をたくさん見つけてつなげていきたい。



多様な視点からの考えを聞くことができてよかった。もっと互いに学び合える関係性が構築できたらいいな。

グループ3

- 色の混ざり具合を「桃」や「チョコ」の色に例えて楽しみ、自分で作った色やイメージを言葉で共有していた。
- 友達の描いた絵に描き足したり、収穫した野菜と一緒に水に浮かべて比較したりして楽しむ。
- 「なぜ大きいナスが浮いて小さいトマトが沈むのか」といった疑問を持ち、図鑑で調べたことを実際に試そうとする

□環境構成

- 子どもの意欲を支え、自発的な試行錯誤を促す環境が整えられている。
- 子どもが使いやすい高さに道具を配置し、前日の気づきを試せるよう必要な素材(りんごやトマト等)がさりげなく準備されている。

□教師の援助

- 描き方の提案や具体的な言葉がけでイメージを広げ、前日の遊びを振り返ることで今日の活動へつなげている。
- 気持ちを穏やかに受容してトラブルを解決し、安易に答えを教えず「どうしようか?」と問いかけて考えを促している。

幼小接続の推進に向けて

- 子ども自身が「やりたい」と思える環境を整え、自ら選び、決める場を保障する。
- 自分の困り感や感情を言葉にして相手に伝えられるような関わりを重視する。
- 小学校で使用される教材をさりげなく置いておくなどの環境を工夫

宮本先生コメント

- 身近な野菜、生活に直結しているものを題材にしている。生活で体験したものが自分の経験とつながっていく中で試行錯誤。重いのには浮かんでいる、軽いのには沈んでいる...なんかわからないけど感覚的気づき、問いが浮かぶ時間。心が動く。「なぜ?」と問いにつながるものが学びにつながる。
- 幼小の先生と一緒にその場面をみることに価値がある。身近なもので浮かぶ、沈む。次は?内在的動機につながる。子どもが心を震わせ次につながる。浮力に出会い、物の質量との関係に気付く。
  - ・目に見えない自然現象の不思議さ→科学的探究心の芽生え
  - ・身の回りの不思議に気づく、出会う→学びに向かう探究心
 幼児教育でたくさん種まきをすることが大事。幼児期に根っこを広げ、小学校がバトンを受けとる。

7月31日(木) 南幼稚園

野菜の浮き沈み

- ・“軽いのに沈む”“重いのに浮く”
- 感覚を通じた発見と問い
- 生活と関連した素材からの探究
- “試してみたい”内発的動機
- 見えない自然法則との出会い
- 確かめる/比べる/考える
- 科学的思考の芽生え

野菜の浮き沈み を幼児が探究する意味  
目に見えない自然現象・自然法則=浮力 に出会うことの意義や価値

- ・小学校での学びにつながる科学的思考の芽
- ・観察・実験から自然を敬する心情や主体的に問題解決しようとする態度へ

虫探し(カミキリムシ)のドラマ

- 昨日捕まえたカミキリムシを逃してしまった... 今日捕まえない!
- 昨日いた場所... 今日?
- 発見! 先生も子どもも心が動く
- 「捕まえた!/捕まえられなかった...」
- エサ(リンゴ)を与えるが...

捕える探究には心が動いているがその後の飼育にはどれだけ心が動いているのか? 捕まえた後の探究をどう保障していくのか?

- ・虫のカラダの仕組み、暮らし、食物連鎖...等、飼育で出会える生き物の探究は限りなく広がっている
- ・虫の生態に問いを立てる力、学びを深めようとする力→小学校に通じる



令和7年度 保幼小エリア連絡会公開保育&協議会まとめ (鏡原幼稚園)

- 日時:令和7年8月1日(月)9:30~
- 協議の視点 \*保育参観後の協議会において、各グループごとに下記の①~③の視点で話し合った内容をまとめました。

① 子どもが探求する姿、関わり合う姿



おたまじゃくしとの関わり

繰り返し試す色水遊び

② 教師の援助や環境構成について



いつでも疑問が調べられるように図鑑や道具を揃えて環境を整えておく。



気付いて欲しいところをしっかりと掲示する。

③ 保育の充実(遊びの発展)に向けて



水鉄砲での的当て面白くするには・・・



遊びのあとのふり返り。クラス全体で共有

グループ1

- おたまじゃくしの観察や色水作り、水遊びの展開(的当てから泥水の観察へ)など、自然や物象に自ら関わり発見を楽しむ姿が見られた。
- 「やりたい」「いっしょに」など、遊びへの意欲や喜びを象徴する言葉が多く聞かれた。
- たてわり保育の中で、年上の子の遊びを見て年下の子が遊びの幅を広げたり、自然に遊びが伝播したりする様子が見られた。

□ 環境構成

- 整理整頓された豊富な道具や、色水遊びに使える草花が植えられた園庭など、やりたいことを即座に試せる環境が整っている。

□ 保育者の援助

- 「なぜ?」「どうやって?」といった問いかけや、子どもの言葉を復唱して価値付けすることで、気づきや友達との繋がりを促進している。

遊びをつなげる・しかけるためには・・・

- 色水を凍らせる、グラデーションを作る、布を染めるなど、水の性質や色彩への興味を深めるための多様な展開へ
- 「色の予想をする」「うすいと書けない」といった、体験から気づきや予測を引き出す工夫
- さなぎの変化の観察や、命の大切さを共有する場を設けることで、自然への理解を深められるような支援

グループ2

- 擬音や様子を使い、自分の体験を一生懸命に伝えようとする姿がある。
- 友達への拍手や片付けの掛け合い、年上の子のダンスを真似るなどの異年齢の関わり。
- 色水の実験や生き物への興味を通じ、失敗しても繰り返し挑戦したり試行錯誤したりする姿がある。
- 友達にアドバイスを送る、生き物を思いやる声かけなど。伝え合い・認め合い・探求する姿が見られた。

□ 環境構成

- 虫めがね、計り、メジャーなど、発見を即座に検証できる道具の充実。
- 文字・絵・写真による掲示や表示を行い、自立を促す仕掛けが十分にされている。
- 豊富な遊びの種類を用意しつつ、タイマーによる水分補給など生活リズムを。

□ 教師の援助

- 具体的発見を促す問いかけや、友達との共有・仲立ちとなる言葉かけがある
- 水鉄砲の遊びを小学校の理科学習へつなげる意識を持ち、子ども自身が「先生」となって教え合う機会を作っていた。

さらに発展させるためには・・・

- 一人ひとりの遊びの姿を捉え、めあてや目的意識を持てるよう支援する。
- バラバラなイメージを繋ぎ、モデル提示や働きかけて協同的な遊びへ導く。
- 子ども同士を繋ぐきっかけを作り、質問や相談ができる対話力を育てる。
- プロセスの見える化: 遊びを言語化・視覚化し、昨日との変化や新たな問いから学びを深める。

グループ3

- おたまじゃくしの足が生えたことへの気づきや、カバマダラのさなぎの色が緑から茶色に変化したことを発見し、友達と共有している。
- 金色テープ越しに景色を見て「タ方みたい」と感じるなど、光や色の見え方の違いを楽しむ姿がある。
- 音楽に合わせたダンスやエイサーを自分の世界に入り込んで表現して楽しむ姿がある。

□ 環境構成

- 昆虫コーナーに関連する図鑑や絵本を置く、片付けやすいカゴに数字を振るなど、思わず試したりやってみたくするような環境。

□ 教師の援助

- 「どうしてだと思う?」と問いかけ、子どもが自ら考える余白を残した必要最低限の声かけ援助を行っている。

遊びの発展(学びを豊かにするための仕掛けとは)

- 成長を写真や絵で記録し、保育士と子どもで振り返ることで、次の遊びへの意欲につなげる。
- 窓にテープを貼って影の変化を見せたり、水鉄砲での的当ての的の素材を変えて耐久性を試したりするなど、科学的な探究心を刺激する。

幼児期の遊びが小学校のどの単元に繋がっていくのかを知ることで見通しを持つことができました!



幼児教育を学ぶことが小学校教育にも生かされていくのかなと感じた。

宮本先生コメント

「深い学び」をどれだけ見とれるか。幼児教育の本質を捉えていないと、深い学びにはつながらない。

深い学びを探っていく力を教師がつけていくことで、接続の本当の力がついていく。

○おたまじゃくしとの関わり

生き物の生態変化を捉えるのにわかりやすい「材」。いつでも大量に捕まえられるもの、無数にいる材の1つを丁寧に慈しむということでは、おたまじゃくしは難しい「材」。1、2匹では大切すぎるが、多数いると1匹くらい・・・と思ってしまうのはしょうがないこと。でもそこをどう乗り越えるか。死に対して1回1回立ち止まって考えていく。道徳的、倫理的に身近な生き物の死に出会っていくのは大事な事。抽象概念を理解できるのは5歳後半。身近な人の死、ペットの死などの経験があれば理解できているかもしれない。おたまじゃくしは有用な「材」であり、難しさのある「材」である。

出合いをどうするか。見つける、捕まえる(知的好奇心) 感覚をどうするか、そのプロセスで生の感じ方が変わってくる。観察眼を養っていく、肥やしていく。生活の中の生き物の変化と一緒に感じながら小学校で培っていく。経験の中で観察から飼育へ。どんな餌をあげるといいの、常に同じ物を食べないことに気づく。おたまじゃくし、カエルの嗜好性に気づく。子と子が飼育を通してつながっていく。多様なプロセスの中で飼育を小学校との連携にしていく。

8月1日(金) 鏡原幼稚園

水鉄砲遊びにおける学びの繰り上がり

- 水鉄砲からつながる学びとは
  - 身体性/創造性
    - 遠くに飛ばす方法(道具? 手指?)
    - 素材の違いの探究
  - 対人関係/社会性
    - チーム戦、対戦(ルール)
    - 対話力



好奇心を広げ主体性を活かす  
調べる/考える/試すという学びのサイクルをつくる = 気づき・探究の素地



- 協働的/探究的な学びや姿勢をつなぐ
- 遊びの中の興味・関心を教科性へ

生き物の命を考える(考えてみる)保育

- オタマジャクシという材
  - (1)身近な見つけやすさ
  - (2)成長の形態変化が短期間でわかりやすい
  - (3)生命サイクルの学びにつながるというメリットがある一方で...
  - (1)命の扱いが粗雑に
  - (2)生態系の意識が必要
  - (3)衛生面や安全面の課題
  - (4)飼育環境の難しさ



命の循環性を意識させる保育モデルは、小学校での生命教育にも直結



- 形態変化の観察と気づき(手足の生えるタイミング/呼吸の仕方など)、飼育環境の検討(役割/安全など)を保育で考える